

## 新たに導入した球根性の ベゴニアについて

尾崎健司・島田有紀子

広島市安佐南区在住の橋本輝彦氏より譲り受けたベゴニアについて報告する。

2012年5月17日に、橋本輝彦氏が中国広西チワン族自治区桂林市市街地から北へ50kmほど離れた胡蝶谷における溪流沿いの岩場にて、ベゴニアの開花盛期の群生を発見した(写真1、2、3)。主に桃花の個体が大半だったが、一部に白花個体も生育していたとのことである。その中から、極小さな株で、多くの葉をつけた5個体について、いずれも葉縁に小球根がついた状態の葉(後述)を1枚ずつ採集したとのことである。

桂林市は北緯約25度に位置し、亜熱帯気候であると思われるが、胡蝶谷はやや標高が高い山であり、本種の他に、*Begonia laciniata*をはじめ、数種のベゴニアやラン科の*Pholidota chinensis*な



写真1. 胡蝶谷の岩場における自生の様子  
(橋本輝彦氏撮影)

どが生育していたとのことから、氷点下になることはないと思われる。

同氏は帰国後、採集した5個体の葉についた

小球根を土に植え、自宅の戸外で栽培したところ、秋を待たずにすぐに落葉、休眠したとのことである。しかし、そのまま戸外で放置していたところ、翌春に正常に発芽が見られた。その後、2013年5月に当園にその5個体を寄贈していただいた。

当園のベゴニア温室にて、引き続き栽培したところ、形質は草丈、葉色や花色、葉縁上における極小球根のつきやすさなどで、個体に若干差異がみられた。ここでは最も成長が旺盛であった1個体について測定した結果を示す。



写真2. 桃花個体 (橋本輝彦氏撮影)



写真3. 白花個体 (橋本輝彦氏撮影)

### 形質

植物体長は約15cm、茎の長さは1.5~2.0cm、葉柄は長さ5~8cm、直径0.5~0.8mm(写真4)。葉身の表面の色は暗黄緑色(日本園芸植物標準色票、以下同じ)、白い絨毛が多数生え、ベルベットの質感がある。葉身の先端は尖る。葉身の裏面の色は浅緑黄色で、穏紫桃色の葉脈が網状に入る。葉縁には鋸歯があり、長さ2~3mmほどの白い絨毛が生える。



写真 4. 全体の株姿

花は頂生し、雌雄異花。花柄は長さ5～12cmで、繊毛が生える。小花柄は2～6cm。花は木立ちペゴニアのように二又分枝を繰り返しながら下垂するのではなく、上に向かって分枝しながら咲く。花柄の節に雄花2輪、雌花1輪をつける。雌雄両花とも4枚の花弁をもち、淡紫桃色。雄花の大きさは長さ約1.5cm×幅約1.8cm。上下2枚の花弁が左右2枚の花弁より大きく、大花弁は長さ約0.9cm×幅約1.2cm、小花弁は長さ約0.9cm×幅0.6cm。小花弁は開花後に落ちることが多い。葯の数は60～70本。雌花の大きさは長さ約1.1cm×幅約1.6cm。雌花も上下2枚の花弁が左右2枚の花弁より大きく、大花弁は長さ約0.9mm×幅約1.1cm。雌ずいの柱頭は3裂し、その各々はさらに2裂する。子房の色は黄白乳色で、3枚の翼状突起をもつ。

地下に下胚軸が肥大した塊茎を有する。さらに、休眠とは関係なく、葉縁の鋸歯上に2～3mmの極小球根を多数形成する(写真5)。この球根は時期により、葉縁についた状態で発芽する場合(写真6)と、落下した後に土の上ですぐに発芽、発根する場合、あるいは休眠する場合とがある。休眠しても一定期間を経ると、自然に発芽、発根する。

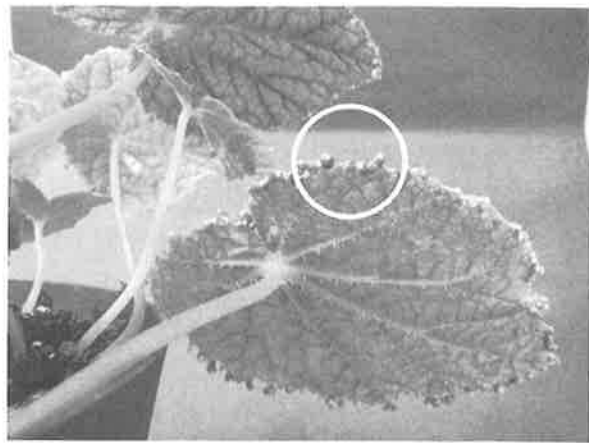


写真 5. 葉縁に形成された小球根(丸印)

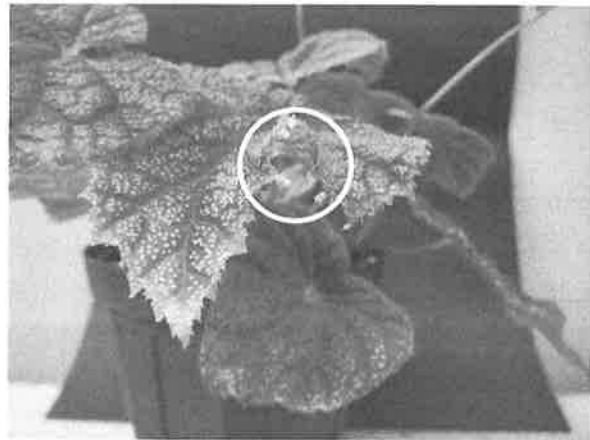


写真 6. 葉縁についた小球根から発芽した様子(丸印)

#### 所感

ペゴニア属では、*B. evansiana* (シュウカイドウ)、*B. sutherlandii*、*B. socotrana* など一部の球根性種において、休眠に入るとき、葉腋に珠芽を形成することがある。これらは腋芽が球根を形成する現象であり、本種のような葉縁に不定芽由来の球根を形成する種は、当園のコレクションの中ではまったく類を見ない。

ペゴニア属において、葉の細胞分裂は維管束が集結する葉底部で最も活発であるとされるが(島田、2008)、本種はおそらく、葉縁においても細胞分裂が活発であり、不定芽形成能が高いのではないかと考えられる。この現象は、セイロンベンケイソウなどカランコエ属で見られる葉縁における不定芽形成に似ている。また、本種は葉に繊毛が多数生えていることから、多細胞組織である毛において脱分化のための細胞分裂活性が高いのであろう。

当園で自家受粉を試みたところ、受精しなかったことから、他家受粉で種子繁殖する可能性が

極めて高い。今後、栽培している同種の別の個体で交配を試み、種子採種したい。

本種は冷暖房と長日条件の整ったベゴニア温室で栽培しているため、自然開花期や休眠時期、葉縁における球形成の時期が一定していなかった。塊茎および葉縁における球根の生育条件については今後の検討課題である。

なお、数種類の文献を調べたが、本種と合致する記載は見当たらず、種を同定できなかった。今後、さらに調査し、明らかにしたい。

### **謝辞**

安佐南区在住の橋本輝彦より、苗の分譲および情報提供を賜りました。ここに深く感謝の意を表します。

### **引用文献**

島田有紀子 2008. 球根ベゴニアにおける葉ざし繁殖に関する研究. 広島市植物公園紀要 26号: 1-52.